

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300442		
法人名	有限会社 碧		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	上郡標茶町旭2丁目4番19号		
自己評価作成日	平成30年 月 日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300442-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、午前中に体操や脳トレなど行っています 体を動かすことで利用者様の現在の体の状況を把握し日々の介護につなげています 脳トレは計算問題やしりとりなど利用者様の理解力に合わせて行っています 難しい事柄よりもできると言う達成感を実感していただき活力につなげていきたいと思っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームむつみは、1階に併設のデイサービスのある建物の2階に開設し、15年目を迎えた事業所です。勤続10年を超える職員が多く在籍し、利用者と生活を共にしながら、「本人らしさ」を大切にしたパーソンセンタードケアを行っています。事業所では、職員の定着がよりよい支援や技術の蓄積、そして利用者の落ち着いた生活につながるとし、職員の雇用環境の向上に取り組んでいます。職員に運営の方針を示し、アイデアを実現できる機会を作ることで職員の達成感や自信につながっています。職員が利用者と共に楽しみ、そして真剣に取り組む姿は利用者からの信頼につながっています。事業所と地域との交流にも力を入れており、町内会の育成部やNPO法人、学校などで定期的な催しに参加しています。また、高齢者が安心して住み続けられる地域作りにも取り組んでおり、事業所の専門性を活かして行政などの連携を行っています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示し職員が認識できるようにしております	事業所開設時に掲げられた理念を居間に掲示し、日々確認すると共に、実践につなげるように努めています。長く勤務する職員が多く、支援の礎として定着しています。会議の際にも職員と共有するようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との密な交流には課題が残るが、1昨年末より地元の保育園との交流をはじめ、町内会の子供会とは年に1回共同で行事を行っておりその際には地元高校生も参加しています	町内会の育成部と連携し、子どもとの交流行事や廃品回収に協力しています。地域情報の収集し、参加に努めています。利用者が、散歩がてら地域食堂に出掛けるなど、地域とつながる接点を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の作品展に利用者様が作成した作品を展示しています また、少しずつですが雑巾縫いを行い今までに保育園、小学校、高校へ寄付させていただきました		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回程度の開催を行い、事業所内での活動や課題などを話し合い実践を行っています	会議は定期的開催しています。家族には委員の委嘱をしていますが、参加者が少なく、意向や意見の反映につながっていません。また、議事録を作成していますが、家族への送付は数年前より中断しています。	運営推進会議の意義を踏まえ、会議の目的を達成できるよう検討し、参加者の拡大を行うことが望まれます。特に、家族への参加の呼びかけと共に、参加できない場合も意見を集約していくための取組や、議事録の送付などを行い、情報を共有していくことが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、包括会議、権利擁護の会議などを通じ協力関係を持っています	行政担当窓口とは、日常的に連絡を行っています。また、要介護者施設として行政との打ち合わせを重ねています。災害時の事業所から避難先までの移手段や避難時に利用者が食べやすい食料についてなど、具体的な話し合いを行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は数年前に1度あったが保険者と密に連携していた それ以外では身体拘束については理解し行わないケアを実践している	職員会議で事例検討を行うなど、身体拘束をしないケアへの理解を深めるようにしています。センサーは使用せず、適切な支援とリスク管理を行う方針です。新年度に向け、併設のデイサービスと合同で身体拘束適正化委員会設置の準備を進めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	過去に地域包括支援センターの協力を得虐待に対する研修会を行った また毎月行われる事業所会議の中でも再確認を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターの委員を受けており自治体にも必要な事項など発信しており、必要な事項に関しては共有し利用者様の生活が守られるようサポートしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご本人のほかにご家族や後見人にも同席していただき十分な説明を行い了承をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の日常での会話や個別での面談を行うなどし要望や意見を集約するようにしている 職員間で検討したり推進会議の議題にし取り組みの具体的内容など検討、実行している	日常のケアの中で、利用者の意見や要望を汲みとるように努めています。得られた意見や要望は介護記録や申送りを通じて職員間で共有し、事業所全体のよりよい支援などにも反映しています。家族の意見や要望は、面会や電話の際に聞き取るようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の事業所会議を行い会議内での事柄などは職員の意見として代表者等にも伝え意見の反映に努めている	職員がいつでも意見を伝えられる環境づくりに努めています。事業所会議の場だけではなく、日々の仕事の中で、管理者や職員がコミュニケーションをとり、意見の聴取や速やかな反映につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より勤務時間の報告や個々の勤務形態の改善など提示し実行している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術の向上及び資格取得の支援として事業者が負担し実務者研修の受講を行っている 希望者には検討したうえで研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者同士のコミュニケーションとして運営推進会議や包括会議で話し合いや問題の提議や解決など行っております 職員間では年に1回行き来する行事の際にケア方法など学んでいます		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に十分なアセスメントや情報収集を行いご本人の状況の把握に努めます また入所開始時には話をしやすい雰囲気を作りご本人のお話を伺い関係性を築いていきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人も含め入所前よりアセスメントをする中で関係性を築くようにしています 入所開始にはご家族等から安心していただくとともに多様な要望をいただき一緒に考えて行きます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活環境を把握し十分なアセスメントと検討に基づいて福祉用具の利用やデイサービスの利用などさせていただくことがあります		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人らしさとは？を考へご本人と共に一緒に考え、一緒に行動することで家庭のような関係を目指しています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況などを近況報告書で報告したり、電話などで報告しご家族の意見を伺いながら随時ご本人にとって良い方法を一緒に考えています		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設しているデイサービスとの交流や地域食堂の利用を通じなじみの方々との関係の継続を行っている	入居時に得た情報だけではなく、日常のレク活動で懐かしい思い出を語る機会を作るなど、利用者の馴染みや繋がりを把握しています。併設のデイサービスや地域食堂へ出かけるなど、馴染みの関係の継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係や一人一人のコミュニケーション能力等を把握し必要に応じて職員が仲介役に入る等しています そうすることでいろいろな話題でみんなでこやかにかわりを持つことができます		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了されてもご本人のところに訪問したり、また来ていただいたりと交流を持っています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情などからご本人の意向を把握するように努めています 困難な場合はご本人の意向に出来るだけ添えるようご家族、職員、関係事業所等で検討しています	言葉や表情だけではなく、本人のちょっとした変化に着目し、思いや意向の把握に努めています。困難な場合は、複数の職員でアセスメントを行い、利用者本位のサービスになるよう、検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直接面談や事前にケアマネージャー等から情報をいただき必要に応じてサービス事業所等にも情報の収集を行っており十分なアセスメントを心掛けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体操や脳トレ、日常生活の動き等からご本人の心身の状態の把握を行い職員間で情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題についてご本人の意見を聞く機会があれば聞き取りを行い、ご家族の意見を伺います事業所会議の中で定期的なケアプランの検討とモニタリングを行い職員全員が参加できるものになっています	毎月全員が参加する会議でモニタリングを行っています。定期的な変更だけでなく、利用者が安心して支援を受けられるよう、その時の状況に合わせて疾病の理解などを交え検討しています。生活場面で利用者の笑顔が多くみられるよう、利用者の希望を基に計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間のチェックシートに短期目標を記載し実践できているかどうかを評価しています ケアプランの変更等については職員より活発な意見が出されています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設サービスのみならずご本人のニーズにできる限り答えるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのNPOやサークル、商業店などと連携し利用者様たちが笑顔で過ごせる時間の確保を行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には同行し主治医との連携に努めています ご本人の希望などは主治医と相談しながら取り組んでいます	かかりつけ医の受診に家族が付き添う場合は、必要に応じて事業所であらかじめ医療機関に電話し症状を伝えたり、書面を持参してもらっています。町立病院は往診も行っており、利用者の状況により主治医を変更する場合があります。受診時には職員が同行し、状況の説明や受診結果の共有をしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には看護師の配置はなく、併設事業所の看護師に相談したり、主治医のいる病院へ相談等行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地元病院との連携は十分に行えており、退院時の目安等共有しながら進めている また地方病院については相談室を通じ情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	施設でできることを入所時より十分に説明を行っている そのような状況になる見込みの場合はご本人の意向の確認やご家族の意見など聞きながら十分に検討し包括支援センターや特別養護老人ホームおよび主治医などと連携し支援を行っている	地域の医療体制が整っていないこともあり、看取りは行っていません。入居時に重度化や終末期の対応について説明しています。重度化への対応は主治医や特養などと連携し、適切な介護方法を検討しながら支援にあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習の参加や事業所内の会議での再確認を行い対応できるように努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練の実施や保険者等との連携により全職員へ周知徹底を行い実践を行っている	年2回、昼夜の火災を想定した訓練を全職員が参加し行っています。今年度は実際に洪水での避難を経験し、その際、町との連携も行っていきます。避難場所についても、家族との事前の情報共有も行っています。	過去の大規模災害の教訓から近隣との協力関係は重要です。消防署が近くてもすぐに駆け付けられない場合もあります。訓練にも近隣の参加を呼び掛けるなど、地域との協力体制を構築していくことが望まれます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重しプライバシーや個々のプライドを傷つけないような声掛け方法を定期的に検討し実践している	事業所内で打ち合わせを行う際にも、利用者の人格や尊厳を尊重し、デリケートな話題は本人が特定されないよう、職員間で符丁を使っています。職員の気になる行為は、より良い支援への方法を検討するなど、日々改善に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	じっくりと向き合う時間を作りお話をすることで思いをお話しできるよう取り組んでいる 言葉だけではなく表情や行動なども把握するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人の自己決定や過ごし方のペースを把握するなどし添えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容についてはご本人が自分で満足するまでできるよう用具を用意したり声かけするなどしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好については随時検討している また口腔状況や嚥下状況についても随時把握しご本人や家族の意見を聞きながら食事が行えるようにしている	利用者のリクエストに応じてメニューを決め、買い物に行く等、利用者の嗜好やその時食べたいものを提供できるよう取り組んでいます。事業所の畑で収穫した旬の野菜を使ったり、焼肉や外食など、日々の食事に変化をつけるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量などについては24時間チェックシートに記載し職員が把握している 時間帯をずらして提供したりと工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人のできることを優先に声掛けや見守りをしてしながらケアしている 毎日夜には洗剤に浸け清潔に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間チェックシートにより排泄状況がわかるようにしている 時間帯誘導等行いできるだけトイレで排泄するように心がけている	排泄の記録は、利用者の目に触れないよう配慮しています。羞恥心に配慮し、利用者ごとに声掛けの方法やタイミングに注意してトイレでの排泄に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や食事の工夫を行い排便がスムーズに行えるように援助している どうしても困難な方については主治医と相談し下剤の利用も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的な時間帯などは決められているが、ご本人の希望や意向があった場合には柔軟に変更が行えるように対応している	週2回の入浴を基本とし、利用者の要望に柔軟に対応しています。入浴剤を複数用意するなど工夫をしています。温泉に出掛け足浴も行っています。職員、入居者共に女性のみであり、同性介助となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間ごとの活動を通し生活のリズムがつくようにしています お薬には頼らずに入眠が行えるように、不安や心配なことはお話を安心してもらうように努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容のチェックと服薬状況の把握に努めています 必要に応じて主治医や薬剤師、看護師等へ状況報告し服薬について検討しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご本人の趣味など十分に把握しご本人ができることを継続して行えるよう支援しています またできる達成感を味わえるよう職員と一緒に取り組みを行ったりしています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬にはなかなか希望が出ませんが、温かくなってくると要望もあるため外出支援を行います またご家族にも連絡し外泊など行えるよう支援している方もいます	事業所の畑での軽作業や近所の地域食堂への訪問、利用者のリクエストに応じたドライブなど、日常的に外気に触れるようにしています。入居者の高齢化や職員の不足もあり、全員での外出は困難になりつつあり、個別支援の充実を検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の気持ちに応じてお小遣いを所持している方はいます おやつを買いに行ったりなど支援することもあり相談しながら進めています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ電話をすることがあります 事前にご家族にもご本人の心の状況を伝え電話をしご本人が満足できる結果になることができました		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた展示品の選定を行い季節を感じていただけるようにしています わかりやすく表示することで利用者様が混乱せずに過ごせるようにしています	外光の差し込む明るい居間に、利用者が楽しめるテレビやカラオケなどが備えられています。季節や行事に合わせた飾り付けを行い、無機質になりがちな空間に季節感を演出しています。加湿器や濡れタオルなどを活用し、湿度の維持に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごしている時間が皆さん多く、テレビ前にいたり食卓テーブルに着いたり個々の時間を過ごしお話をしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に説明しご本人が使い慣れた物や思い入れのあるものを使用していただくように説明しています 仏壇を持ってきている方もいます	入居時に馴染みの物を持参するように働きかけています。また、力量に合わせて利用者と一緒に居室の掃除を行っています。担当職員を定め、濡れタオルでの加湿や安全な動線の確保など、居室の環境の整備を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋前のドアには個々の写真が掲示してあり部屋がわかりやすいようにしています また食卓テーブルには場所に氏名を貼りわかりやすくしています		